九州大学学術情報リポジトリ
Kyushu University Institutional Repository

Development and validation of a risk score for the prediction of cardiovascular disease in living donor kidney transplant recipients

植木, 研次

https://hdl.handle.net/2324/4495967

出版情報：Kyushu University, 2021, 博士（医学）, 課程博士
バージョン：
権利関係：Public access to the fulltext file is restricted for unavoidable reason (2)

KYUSHU UNIVERSITY

氏　　名：植木　研次

論 文 名：Development and validation of a risk score for the prediction of cardiovascular disease in living donor kidney transplant recipients
（生体腎移植レシピエントにおける心血管病発症予測モデルの作成と妥当性の検証）

区　　分：甲

論　文　内　容　の　要　旨

背景：心血管病（CVD）は腎移植レシピエントの主要な死因である．簡便で精度の高いCVDリスクの予測方法の確立は，腎移植レシピエントの長期生命予後を改善するために重要である．

方法：2006年1月から2012年12月までに九州大学病院で生体腎移植を施行された331例の腎移植レシピエントを導出コホートとした．Cox比例ハザード回帰モデルを用いて後ろ向きに解析し，CVD発症予測モデルとリスクスコアを作成した．c統計量とHosmer-Lemeshow検定による判別能と較正を検証した．東京女子医科大学病院で生体腎移植を施行された300例を検証コホートとして，導出コホートと同様の統計手法を用いて外的妥当性を評価した．

結果：導出コホートでは観察期間に28例（8.5%）がCVDを発症した．移植12カ月後のレシピエント年齢，CVD既往，糖尿病性腎症，透析歴，血清アルブミン濃度，尿蛋白がCVD発症の重要な予測因子として抽出された．整数によるリスクスコアを作成し，その判別能（c統計量 0.88）と較正（Hosmer-Lemeshow 検定 $p = 0.18$）は良好であった．検証コホートでリスクスコアを適用し，同様の解析を行ったところ，判別能（c統計量 0.77）と較正（Hosmer-Lemeshow 検定 $p = 0.15$）は良好であり，外的妥当性が示された．

結論：当院の腎移植コホートを用いて作成された簡便な生体腎移植レシピエントのCVDリスクスコアの有用性が示された．